

でも、どうしたらいいの？

日々の授業で具体的に
何を変えていくべきなのか
わからない…。

中学校は学校行事や
部活の対応が多く、
授業の準備をする時間が
十分に取れない…。

どう指導すれば
生徒が英語で
話せるようになるのか
わからない…。

学習内容が
レベルアップしているけど、
生徒にわかりやすく
指導できるかな…。

その悩みに、お答えします！

中学校で新学習指導要領が実施され、さまざまな変化が予想される2021年度。
不安や悩みを抱えている先生も多いのではないのでしょうか。
次からのページでは、先生方のお悩みに、Here We Go! の編集委員がお答えいたします。

Q1

「思考力・判断力・表現力」の
育成が大切だと言われていますが、
中学校ではどんな活動をすればいい？

技能を統合した
活動って
どう指導すればいい？

目的・場面・状況が
設定された言語活動って
どんなもの？



A1 自由なやり取りを促す タスクを中学校英語に 取り入れましょう。

名城大学教授 まつむら まさのり
松村 昌紀先生

タスクとは

タスクとは英語を聞いたり話したりすることで情報を伝達・共有したり、問題を解決したりする課題です。表現の際には生徒みずからが用いるべき表現、話すべき内容を工夫して目標の達成を目指します。生徒自身が主体的に考え、判断し、表現することで、アクティブ・ラーニングが自然な形で実現されます。

タスクを取り入れた活動の特徴

タスクを用いた言語活動が練習型の活動と大きく違うのは、言語形式の選択が生徒たちに委ねられていることです。タスクは「習った表現や文法項目を使わせるための課題」ではありません。活動の際、最も大切なのは先生がこのことを理解し、使用する表現や文法項目の指定や指導をしないことです。

活動前に生徒たちに与えたほうがよいものがあるとすれば、それは用いるべき語や構文ではなく、生徒たちが必

要に応じてゴールへの到達方法や効果的な表現などを計画し、準備するための時間です。活動中は、生徒たちが協働して目標を達成していく様子をどうぞ見守ってください。

指導のポイント

タスクを用いた活動は「楽しく取り組めて、通じさえすればそれでいい」というものではありません。先生としては生徒たちが使っている表現を収集し、活動終了後にフィードバックとしてより適切な表現方法を示すことで生徒たちの「気づき」を促し、その体験を新しい学びに繋げることが大切です。活動の成果はクラス全体で共有し、どのペアやグループが最も多くの発見をしたか、優れた成果を生み出せたか、有効な解決にたどり着けたかなどを確認し、評価し合うといいでしょう。タスクを用いた活動を経験することで、生徒たちは自分が英語を使って「できる」(Can-Do)ことへの手応えを感じながら、新たな活動への意欲を高め、同時に表現形式への関心を深めていくことでしょう。

キーワードは…

「タスクの設定」「主体性」「目標の達成」

Here We Go! にお任せください

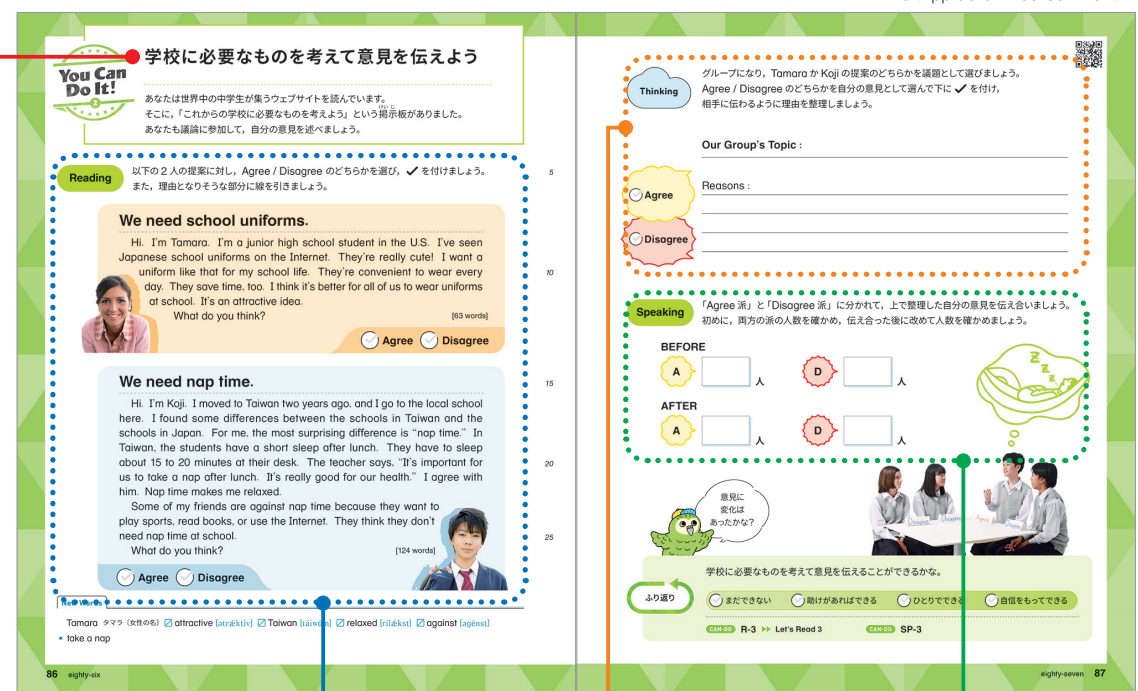
Here We Go! は…

タスクを取り入れた言語活動で、「思考力・判断力・表現力」を育成します。

You Can Do It!【思考力・判断力・表現力を磨く】

- それまでに身につけた知識・技能を統合的に使って取り組む言語活動を、年3回設けました。
- 目的や場面・状況に応じて主体的に伝える内容を考え、表現する活動を用意しています。

3年 pp.86-87 You Can Do It! 2



タスクの目標を提示

生徒が言語活動の目的や場面・状況を意識して行えるよう、具体的な目標を設定しています。

学校に必要なものについての意見文を読む

読む目的（ここでは Agree / Disagree を選ぶ）が最初に表示されていることで、目的をもって読む活動に取り組むことができます。

グループで議題を選び、自分の意見を書く

Thinkingでは、対話を通して思考を活性化し、アウトプットに向けて自分の意見を整理します。ここで生徒は自分の持っている表現を駆使して意見をまとめます。

グループで意見を伝え合う

モデルとなる発話例をあえて提示しないことで、生徒みずからが内容や表現を考え、工夫して目標の達成を目指します。